

二〇一九年七月二三日(参加者九名)

大断層絡みつきたる蔦涼し

こすもす

ダム湖守る人と会積す橋涼し

たか子

滝音に会話消さるる昼餉かな

こすもす

蝉涙も飛沫まみれや滝不動

たか子

梅雨の滝山をも揺らすかと激つ

こすもす

滝風に木五倍子の花の揺れやまず

はく子

碧潭の貯水池覆ふ青楓

こすもす

劈ける滝音涼し風もまた

はく子

存問のごと岨よぎる瑠璃蜥蜴

こすもす

ゴンドラの行き交ふ峽の空涼し

ぼんこ

睦まじく川鵜の潜るダム湖かな

こすもす

滴りに常濡れの岨な滑りそ

ぼんこ

深山道涼し樹間に湖光る

せいじ

滝の道先導するは瑠璃蜥蜴

もとこ

落ちてなほ怒涛逆巻く梅雨の滝

せいじ

荒滝に憤怒の眼滝不動

もとこ

滝しぶく大樹のかたへ苔の花

せいじ

床板に音響くごと瀧見茶屋

よう子

木洩れ日に瀬波煌めく溪涼し

せいじ

漣に風あるを知るダム涼し

よう子

弓なりに反る堰堤に蔦茂る

せいじ

吟行句会みの選

木下闇潜りて登る岨の径

わかば

二〇一九年七月二三日(参加者九名)

滝茶屋の百年といふ古びかな

わかば

滝小径展け眼下に港町

わかば